

～ACPIについて～

訪問診療担当医：世戸博之

ACPとは？

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）という言葉聞いたことがあるでしょうか。厚生労働省からは「人生会議」という愛称が提唱されています。

この便りを手にとって下さっている患者さんやご家族さんにも、これまで大きな病気を患ったり、命に関わる状態を経験された方がいらっしゃるかと思います。医療が進歩し、治療できる病気が増えてきたのですが、残念ながらどれだけ治療技術が進歩しても、命がある私たちにはいつか終わりの時があります。そして、そうした命の終わりに近いとき、悩ましいことがあります。治療“手段”はあるけれども、“治らない”ということがあり得るのです。その治療に負担がなければ、苦痛がなくなるものならば、まだいいかもしれません。ただ多くの病気を経て弱ったりお年を重ねた体の場合、重篤な状態に対する治療というのは、負担や苦痛を伴うけれども、回復ができないことが多々あります。また、回復したとしても、寝たきりになったり、会話ができなくなったり、意識が戻らなかったり、苦痛が残る状態になったりすることがあり得るのです。治療を受けたけれども、「こんなはずではなかった」「こんなに辛い思いをするなんて」ということが起こり得ます。一方で、たとえ治らない可能性が高くても、どれだけ辛い治療でも、一縷の望みにかけて頑張りたいという方もいらっしゃいます。

いずれ訪れる人生の最終段階の過ごし方や、重い病気や重篤な状態になった時の治療の受け方について、後悔や辛い思いをできるだけしないで済むように、できるだけ元気なときから、「前もって」話し合っておくこと、これを「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」や「人生会議」と呼びます。



資料等をご希望される場合は、
スタッフにお申し出ください。



【参考資料】

「厚生労働省」

<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000189051.pdf>

「日本医師会」 https://www.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20180307_31.pdf

「大阪府」 <https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/15815/00332294/ACPsheetA4.pdf>

ACPは誰とどんなことを話し合うの？

ACPを行う上で、大事なことは、患者さんご本人の気持ちや意向そして価値観です。認知症などで、ご本人が十分に話ができない場合、ご家族さんなど周りの方にサポートしてもらったり、話し合ってもらうこともあります。しかし、その場合でも治療を受けるご本人がどう考える（どのように考えていた）のか、どう感じるのかを考え、話し合うことが大事になります。治療の具体的なことは、医療者以外にはイメージが難しいことが多いと思います。例えば、カレー屋さんに入って、「何種類もあるスパイスから自由に選んで好きなカレーを作れます。さあ選んで下さい」と言われても、私には何をどう選んだら好きな味になるのかわかりません。同じように、治療の選択肢だけを提示されても、それだけではいざという時にどのように選んだらいいのかわからない、そのような事が多いのではないのでしょうか。そのために、私たち医療者は、患者さんの考え方や価値観、過ごし方の希望を伺いたいと思っています。それが分かれば、患者さんの状況に応じて、ふさわしい治療の仕方を一緒に相談することができます。

ACPは、自分一人だけで考えるのではなく、ご自身の大切な人と一緒に話し合ってもらう事が大事です。医療者から病状や先行き、治療手段などについての話がある場合も、大切な人と一緒に話を聞いてもらうのがおすすめです。ご家族さんや、信頼する友人など、あなたが重篤な状態になったり、自分で話ができなくなったときに、話を任せる事ができる方と一緒に話し合い、気持ちや方針を共有してください。そうすることで、実際に体が弱った時に、ご家族さんや医療者も同じ方向を向いてケアを行う事ができます。

ACP（人生会議） の進め方

（大阪府HPより）



ACPはいつから考えたらいいの？

ACPは“前もって”話し合うことが大事なのですが、いつから行えばいいのでしょうか。あまり病気もなく若いときからですと、現実味がなくしっかりした話は難しいですし、また状況に応じて気持ちも大きく変わってきます。一方、あまり差し迫った状況になってしまうと、今度はしんどすぎて考えたり話し合う事が難しくなってしまいます。また、認知症を発症してしまうと、なかなかご自身の考えを伝える事が難しくなってしまいます。何かのきっかけがあるときに話し合いを始めていただくのがよいかもかもしれません。例えば、有名人や親戚が病気になった、入院した。自分自身や家族が入院した。そのようなタイミングが一つのきっかけかもしれません。また、この便りをご覧になっていただいたのも一つのタイミングかもしれません。

“もしも”の時のことについて、ご家族さんやご自身の大事な方と、ぜひ話し合ってみてください。



社会医療法人愛仁会
愛仁会しんあいクリニック

〒569-1123
大阪府高槻市芥川町2丁目3番5号
TEL072-681-5533